学校通信　　道 No.19　　令和８年10月27日　　秋田県立大曲工業高等学校
校長　柴田　　修

保護者の皆様、いつもお世話になっております。過ごしやすいよい季節を迎え、日暮れがどんどん早くなり、朝晩の冷え込みも増え始め、秋の深まりを感じる頃となりました。

今回はAIについて触れてみたいと思います。９月に生成AI「Claude」を開発しているアンソロピック社（オープンAI社のChatGPTに関与した元研究者で構成された企業）の研究者ジェイコブ・コクソン氏が、オープンAIとアンソロピックの両社について「責任ある行動をしていない。この先AIによって人類存続に多大な影響がある」と警鐘を提言して退職したニュースがありました。その数日後、オープンAIとアンソロピックの両社CEOが、そろってAIによる制御不能や悪用懸念の危機感からAI開発を減速が必要と表明したニュースがありました。
今、AIによるリスクは大きく３つに分けられます。

一つめは学習面のリスクです。
自分で考える前にAIにすぐ聞いてしまう。「まず自分で考えてからAIを使う」という順序が行われていなかったり、生成AIの結果を鵜呑みにして、確かめず意味もわからない状態にしたり、「答えを安易にAIに教えてもらう」習慣が定着してしまっているように思います。

二つめは、情報環境のリスクです。
AIは「一つの答え」を会話形式でまとめて返してきます。東京大学名誉教授が新聞で、「対話型生成AIはユーザーの過去の質問の傾向を学び、答えを最適化していく。人々が同じような意見ばかりを見聞きし続けることに閉じこもるようになれば、異なる意見にも耳を傾け、共通点を探す『民主主義』が成り立たなくなる可能性もある」と述べています。AIは、自分と似た思想傾向の人とばかりコミュニケーションをとり、自分の意見が強化される「エコー・チェンバー」状態ということに陥りやすいそうです。

三つめは、心理・対人関係のリスクです。
生成AIと「友だち」「恋人」「相談相手」として頼る若者が世界的に急増していて、AIは否定せず、相手を責めることなく、いつでも優しく肯定的に応えてくれます。AIは人間関係よりも心地よい場所になりうるのです。このようなAIの擬人化は深刻な問題です。